

令和 2 年度

事業所名 : あお空グループホーム小本

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000070		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	〒027-0421 岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	令和3年1月4日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がゆったりと穏やかに過ごせるように、居室の環境を整えている。また、自然豊かな環境を生かした散歩や外気浴、お風呂のない時の足浴の実施で気分転換や個別対応での1対1の関わり作りを大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、沿岸地区を中心にグループホームなどの地域密着型サービスを経営し、地域の特徴を活かした各事業所の主体的運営をバックアップしている。事業所は、岩泉龍泉洞インターから1分位の住宅地に位置し、敷地内にはグループホームと小規模多機能センターが並び、利用者同士の交流や夜間緊急時に協力しあう体制が出来ている。東日本大震災や台風19号を経験し、法令上の訓練以外に地域企業の協力を得ての避難訓練や地区の早期避難訓練を実施している。管理者は、利用者との1対1の関りを重視し、利用者の生活リズムを大切にするとともに、地域とのお隣同士の関係作りを進めている。グループホームの実情に理解ある地域の医療機関との協力関係が築かれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	お	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念ウィ理解し『心優しく』笑顔で接している。	地域密着型サービスを意識した法人グループの企業理念をまとめた『こころ やさしく』を玄関とホールに掲げている。理念を熱く語る開設時からの職員が半数在籍し、ロッカーの鏡で自分の笑顔を確認してから仕事を始め、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため活動を自粛しているが、避難訓練の協力や採れたて野菜のおっそわけ・散歩の際の声掛け等小さな交流が有る。	事業所は、自治会に加入し、職員の一人が自治会長を務めている。また、職員のほとんどが自転車通勤のエリアに住んでいる。近所の住民とお隣同士の関係が出来てきており、利用者は、寒くなければベンチに座り、通りすがりの人と挨拶や簡単な会話をしている。また、事業所として、地域から依頼があれば認知症の講師を引き受けたり、認知症の相談にも随時対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや介護教室等の開催はしていない。認知症についての相談があった場合は随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動やケース検討・小さな困り事を議題とし、参加者の方々から意見を頂いている。	運営推進会議は、11名の委員で構成され、小規模多機能センターと合同で、会場を交互に代えて開催している。活動報告、職員体制、課題事例などを議題として取り上げ、委員は協力者の立場で助言している。自己評価、外部評価結果の資料を配布し、口頭で説明を行っている。	小規模多機能センターとグループホームが合同で運営推進会議を開催し、事業所の課題について助言を得ており、今後は、オブザーバーとして消防団員等を招き、地域の情報を相互に共有しあう取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町職員・支所職員が参加し事業所の実情は理解していると思う。災害時の避難行動や徘徊のある利用者の情報を提供し見守りの協力をお願いすることもある。	運営推進会議に町の担当職員が参加し、行政情報の提供があるほか、事例検討などを通じ事業所の状況を把握していただいている。また、役場備え付けのボックスからも各種行政情報を入手している。避難所にもなっている徒歩3分の所にある町の支所には、週1回程度は出向いており、要介護認定申請や簡単な手続き、情報交換などを行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化実行委員会を設置し、事業所内では記憶が新しいうちに(毎月)報告・改善策の話し合いを行う。話し合った内容は定期的に運営推進会議に報告している。	身体拘束をしないケアについて年2回、職員が事前学習のうえで講師を務める形で研修を行っている。身体拘束のケースはなく、玄関の施錠は防犯上の理由から夜8時から朝7時頃までとしている。3か月に1回のプラン見直し時には、家族にリスクに関する説明を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施。身体拘束適正化実行委員会でも虐待につながる事例かどうか検討し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施。外部研修がある時は参加している。又、制度を利用されている利用者様がいらっしゃる為必要性等は理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容はわかりやすい言葉に変えて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や、受診等の報告の際に意見等を話せるようにしている。内容は、職員間で共有し運営推進会議で報告できるようにしている。	利用者は、職員へ気兼ねなく話せる関係が出来る。年4回発行の広報誌を家族に郵送する際には、近況や写真も添えて利用者の様子を伝えている。家族からの入退院時の対応や町外受診の要望には、管理者の判断で対応している。意見・要望等の内容は、職員間で共有し運営推進会議でも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換の機会を作っている。それ以外でも随時意見を受け付けている。	管理者は、月1回の職員会議や朝のミーティングなどの際に職員の意見・提案を聞いている。日用品の確保、備品の更新、起床時間の変更、雨天時の室内運動などの提案があり、支援の仕方を調整しながら業務に反映させている。また、利用者と職員の日頃の関係にも配慮し、職員の異動の伝え方を工夫している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の誕生日にアレンジメントフラワーをプレゼントし祝っている。勤続5年目と年目の職員に感謝状と粗品を進呈し慰労している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では職員が順番で講師を務め勉強する機会となっている。機会があれば社外の研修にも積極的に参加するような体制になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	『地域密着型サービス協会』に加入し他事業所と意見交換や事例報告・ネットワーク作りをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申請の際にご家族や介護支援専門員より困り事を聞き取る。ご本人にも面会し不安や要望の確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申請の際にご家族や介護支援専門員より困り事を聞き取る。ご本人にも面会し不安や要望の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所が必要か、一番良い手段かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は家族の一員として、簡単な家事の協力や馴染みある声掛け(方言)をし関係をきずいている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と職員は家族の一員として、簡単な家事の協力や馴染みある声掛け(方言)をし関係をきずいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大きな道路や駅の近所に立地しているため、ついでに顔を見による方もいる。面会制限がなければ、時間等に関係なく会話を楽しんで頂いている。	管理者は、入居前に介護支援専門員や家族から利用者の生活歴や性格を聴き取っている。同郷の入居者との関係調整、小規模多機能センターを利用している知り合いとの交流などの支援を行っている。コロナ禍で地域行事に出かけられないため、ビデオ撮影して事業所で鑑賞している。美容室へ出かける利用者もいるが、7名は訪問美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、負担になりすぎず適度な関係を作れるように目配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞き出すことは難しい。ミーティング等で本人本位の支援について検討している。	利用者から進んで話すことは少なく、希望を聴き出すことまでは難しいが、出かけた場所や利用者の昔話を聴きながら、一人一人の思いや意向の把握に努めている。また、職員から提案する形で、外出やお手伝いなどの希望を聴いている。採れたての野菜や山菜を頂いた場合には、利用者のこれまでの経験や知恵に期待してお手伝いを頼んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当の介護支援専門員と連R句を取り合い情報を集めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りで過ごし方や表情の変化を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで話し合った内容や利用者様が思っているであろうことを介護計画に反映している。	毎月のミーティングで利用者一人一人について話し合いを行い、情報の収集を重ねた上で3ヵ月毎にプランの見直しを行っている。プラン変更ある場合には職員全員に周知し、家族に説明している。介護計画などは個人ファイルで管理し、全職員が閲覧できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事・様子をケース記録に記入するとともに連絡ノートや申し送りで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の暮らしを支えるためには柔軟な支援が必要と感じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、不足な所は職員や事業所が資源となって支える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前にかかりつけ医を把握している。適切な医療が受けられるように日頃の様子等は家族や医師に伝えている。	8名の利用者は、入居前からのかかりつけ医に通院していたが、今年から協力医療機関が訪問診療を始めたため、家族の同意を得て転院している。訪問診療は医師、看護師、薬剤師と職員が対応し、結果は電話で家族へ伝えている。家族が通院に同行する場合には、口頭で普段の様子を家族へ伝え、結果の報告も受けている。週2回、近所の支所へ巡回歯科診療車が来ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化については、看護師に伝えている。看護師と介護員はともに相談できる関係になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供書を持参し直接看護師に説明している。退院が近づくころに面会や看護師からの情報収集のため連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は共有している。重度化や終末期の事例がまだない。	重度化(看取り)指針に沿って、入居時に説明している。これまで看取りの実績はない。家族には状態の変化に応じて説明し、重度化した場合には、改めて家族の意向を伺い、希望の病院等に移送している。職員は、急変や事故発生時に備え、応急手当や心肺蘇生法等の講習を受け、緊急時の対応方法を習得している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練実施やマニュアル作り、避難場所や手順の確認は実践の中で身につけている。地域や町との連携もできている。	町のハザードマップでは、土砂、大雨、津波の危険地域に属し、町のテレビ電話やスマホの防災アプリで関係情報を得ている。一昨年台風水害に際しては、実際に近くの支所への避難を経験した。年2回の火災避難訓練の他、秋には近隣企業の協力による合同避難訓練、11月には地区の早朝避難訓練を行っている。レトルト食品、米、水などを備蓄し、近くの湧水場所も把握している。	

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねできている。プライバシーを損ねる声掛けは気付いたときに注意しあい改善している。共有部はもちろん居室でも、おむつ等は見えないように工夫している。	利用者が女性7名、男性2名であることから、男性利用者が全体をリードするように配慮している。入浴で異性介助を嫌がる方には、同性介助としている。おむつ交換の声掛けを「お部屋に行く」と言い換え、おむつの段ボールに布をかけて、周囲から見えないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一対一で関わる時には出来るだけ話を聞く様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課(時間)はあるが、体調や気分・ルーティーンに合わせ、食事時間や入浴に順番等に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に来ていただき、希望があれば毛染めやパーマもできる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	規せ地の献立や、気候に合った食事を提供。頻繁ではないが、お寿司や刺身のテイクアウトなど食事を楽しんでいただいている。テーブル拭きや下膳の係りなど利用者も関わっている。	利用者は、月に1回近所の商店へ職員と一緒に買い物に出かけている。キッチンからの匂いに誘われて、お手伝いに参加する利用者もいる。後片付け、茶わん洗い、テーブル拭き、下膳に利用者が参加している。おにしめ等の地域食や夏のはっとう、春の早採りワカメなど季節を感じさせる食材を活用している。敬老会では、道の駅からテイクアウトして、お刺身を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は表を利用し確認している。季節に合わせて『甘酒』『炭酸飲料』など希望のものも提供している。給食ノートを活用しバランスの取れた食事作りに約立っている。給食を写真に撮り評価することもある。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、入れ歯は夜間にポリデント殺菌している。明代がある時は協力歯科の受診や相談をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	屋外のトイレだった利用者様が排泄で困らないように誘導や見守りをしている。立位が出来ない方も二人介助で排泄の支援を行い、日中は出来るだけトイレを使用できるようにしている。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、利用者が現す排泄サインを捉えて支援している。これまで生活していた自宅等と事業所での排泄環境が異なるために利用者が困らないよう、誘導、見守りを行っている。夜間にポータブルトイレを利用する方もいるが、失敗しても静かに対応することを徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表を使用。ヨーグルトや水分・牛乳等整腸作用のあるものを提供している。状況に応じ、下剤を使用し便秘解消している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の動きや希望に合わせて入浴時間の変更をしている。男性職員の介助を希望される利用差様には、入浴日を選べるようにしている。	入浴を嫌がる利用者があれば、その人の習慣や好みを特に聴き取るように努めている。お風呂の順番も利用をせかすことなく、動きに合わせて調整している。シャワーの水圧が変わってビックリしたり、頭から水がかかるのを嫌がることから、タオルを濡らして対応するなどの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆっくり眠れるように寝具の整理整頓や空調調節を行っている。ホールで休息できるように、ソファや簡易ベットの準備もしてある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	奥尻の間違いないように職員が管理している。『訪問薬剤指導』を利用しかかりつけ薬局に気軽に相談できる体制が有る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染症予防をしながら、生まれ育った自宅周辺や思い出の場所へのドライブを企画。サンマの炭火焼きや好物(ラーメン)を聞き取り、目先の変わった食事を一緒に楽しむ。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・散歩や外気浴ができている。今年のドライブは少人数で個々に合わせた場所に出かけ、思い出を振り返れるように企画した。	1日1回散歩に出けることで、ストレス解消はもとより、徘徊傾向のある方も落ち着いていただいている。コロナ禍で行事のために出かける機会がなくなったが、お花見、紅葉狩りのドライブには出かけている。外出の希望がある時は職員のシフトを調整した上で、個別にドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や近所の商店で希望する者は購入している。ご家族の了解を頂き、ご本人で少額のお金を管理する方もいる(受診の帰りに宝くじを購入した)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所からは定期的に発行される広報に手紙を添えて近況報告している。携帯電話の使用やテレビ電話の利用を手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よく過ごせるように整理整頓や換気・湿度に気を配っている。	1階の共用空間は、天井備付けの大型エアコンで温度調整をしている。ホールにはソファと食卓用のテーブルがあり、各自思いの場所で寛いでいる。周囲に遮る建物がなく、太陽光とLEDライトとで明るい環境となっている。玄関に季節の花を飾り、ホールには塗り絵などの作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを見て過ごす人や、仲良しで話ができるようにソファや屋外ベンチを用意している。居室で一緒の時間を過ごす姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇に花を供えたり、家族写真を飾っている。季節に合った衣類や寝具は、ご家族に入れ替えをしていただいている。迷子予防のため、居室変更は極力行わないようにしている。	2階の各部屋にはベッド、クローゼット、チェストが設置され、エアコンで空調管理を行なっている。利用者は、仏壇に花を供えたり、家族写真を飾っている。家族には、季節ごとに入れ替えする衣類や寝具をお持ちいただき、担当職員が入れ替えている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力に合わせてできる事をしている。 食事のあいさつ・下膳・戸締り(夏場はくさむしり)等。		